

きたもとで
みどりと暮らす

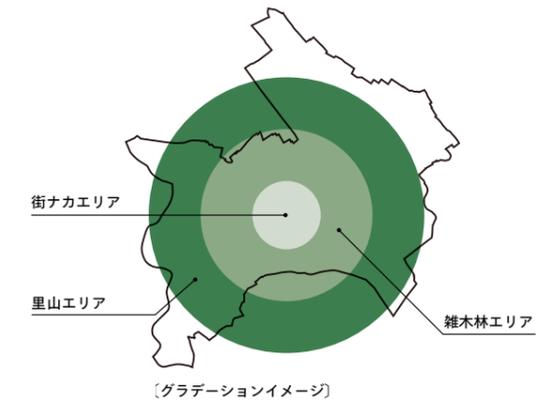
& green

[アンドグリーン]

北本市シティプロモーション



- 4 里山&green
[里山エリアの紹介]
- 6 talk&green PART 1 ～地産地消～
[新井農園×ココフクベーグル]
- 8 雑木林&green
[雑木林エリアの紹介]
- 10 talk&green PART 2 ～子育て～
[NPO法人北本雑木林の会×モリトコ]
- 12 街ナカ&green
[街ナカエリアの紹介]
- 13 遊ぶ・食べる&green
- 14 talk&green PART 3 ～小商い～
[クッキークル×KenichiKondo]
- 16 暮らし&green
[暮らしの情報紹介]



&green

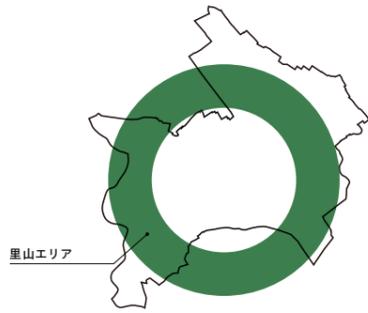
[アンド グリーン]

JR湘南新宿ラインで新宿から50分、埼玉県の中央部に北本市はあります。

都心にほど近い立地ですが、市内には驚くほど多くの自然が残っており、雄大な荒川の流れからまちの中心部に向かって、多様な生き物が暮らす里山エリア、人と緑が混じり合う雑木林エリア、人の営みの中に緑が残る街ナカエリアへと、緩やかな緑のグラデーションを描いています。

一年を通して、自然散策やキャンプ、農業体験など、気軽に自然と触れあえる環境が整っており、季節ごとに市内で収穫された新鮮な野菜は、直売所や飲食店などでいつでも味わうことができます。まちのあちこちに点在する雑木林は、子供が集う遊び場になったり、マーケットの会場になることも。

暮らしの隣にある様々な“みどり”を通して自然に人が繋がる、それが北本暮らしの豊かさです。“みどり”と共にあるこの北本を、あなたはどんな風に楽しめますか。



里山 & green

北本の荒川沿いには未だ多くの自然が残っています。人の営みと共存して残ってきた里山の風景は、訪れる人を懐かしい気持ちにさせてくれます。北本自然観察公園・埼玉県自然学習センターは埼玉有数の野生動植物の住処となっており、その広大な敷地の中を散策すると季節ごとに異なる自然の表情を満喫することができます。サンアメニティ北本キャンプフィールドは、都心から一時間で遊びに来られるキャンプ場として人気を博しています。2019年に「森林セラピー基地」としても認定された豊かな環境は、訪れる人を心身ともにリフレッシュさせてくれる北本の宝物です。



北本自然観察公園／埼玉県自然学習センター

北本自然観察公園は、昔ながらの「里山」の自然を残した公園です。約33ヘクタール（東京ドーム7個分）の広さに、雑木林・草はら・水辺などがあり、夏のハイケポタルを始めとした多くの野生の生きものがくらしています。整備された園路の一部は、森林セラピーロードとしても登録。園内には無料施設「埼玉県自然学習センター」があり、季節ごとに様々な展示やイベントを楽しめ

ます。施設には専門知識を持った自然学習指導員が常駐していて、散策中に会った生きものについて、気軽に質問をすることが可能です。毎週土・日・祝日の14時から、1時間のガイドツアー「定例自然かんさつ会」を開催。当日申込でどなたでも参加できる手軽さから、年間約2000人が参加しています。

[北本市荒井5-200 電話：048-593-2891]

[これまでに公園内で見つかった生きものの数] 昆虫 2000種以上、植物 800種以上、野鳥 約170種



埼玉県初!森林セラピー基地に認定

北本市の緑豊かな里山や雑木林が持つ癒し効果が科学的に認められ、埼玉県初の「森林セラピー基地」に認定されました。野生の生きものが住みやすいように自然の姿を昔のまま残した北本自然観察公園には、おすすめ散策コースがあり、さらに基地認定に伴いセラピーロードが設定され、北本市の豊かな環境をより身

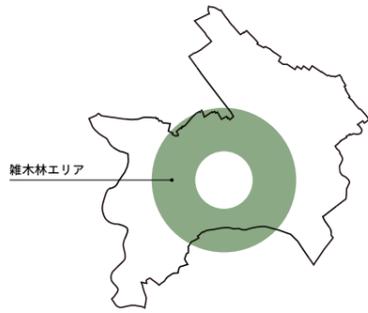
近に感じられるようになりました。北本市での暮らしには、すぐそばに癒しや潤いを楽しめる環境があります。緑の中で深呼吸して五感を働かせたら、こころとからだはほっとする。生活の中にひと呼吸おいたひとときを味わってみませんか。



サンアメニティ 北本キャンプフィールド

15区画のテントサイトや冷暖房が完備された4棟のバンガローが手頃な価格で利用でき、キャンプやバーベキューが楽しめる施設です。また、キャンプ用具の貸し出しや食材の注文もお受けしています。荒川に近い日当たりのよい場所に整備された親水池や芝生広場もあり、キャンプをしない方でも日向ぼっこをしたり散歩をしたり、季節の移り変わりを感じながらゆっくりと過ごすことが出来ます。スタッフが常駐しているので、アウトドア初心者やファミリーにも安心して利用いただけます。管理棟内には売店の他、100人まで収容できる多目的ホールもあります。

[北本市高尾9-143 電話：048-593-0008]



雑木林 & green

北本では住宅地の近くにも多くの緑が残っています。中央緑地を始め公園のように気軽に遊びにいける雑木林が市内に点在し、市民の憩いの場や散歩コースになっているほか、住宅街に隣り合う畑には一年を通して採れたての野菜を気軽に味わうことができる無人直売所が数多く設置されています。そんな暮らしに近い緑の環境を活かし、5月の新緑の時期には「森めぐり」10月の野菜の美味しい時期には「秋の収穫祭」という、収穫体験や音楽祭、マーケットにワークショップなどの様々な催しが開かれ、多くの人で賑わいます。暮らしの近くの自然と、子供から大人まで世代を超えた人の活動が混じり合う、北本ならではの緑の楽しみ方です。



緑の近くで暮らし続けていく

新緑の五月、北本市内に残るいくつかの雑木林を会場に開催される「森めぐり」では、音楽フェス、レストラン、子どもの遊び場、自然散策など、林ごとに様々な催しが行われ、大人も子供も思い思いに楽しめます。気持ちのいい緑の中、気に入った場所を探し、好きなことをして遊ぶ。大人にも子供にも必要な大切な時間です。NPO法人北本雑木林の会が30年にわたって守り続け

てきた北本の雑木林は、そんな大切な時間を私たちに与えてくれます。新緑の中に立つ子供たちがいつか大人になっても雑木林に戻ってこられるように。緑の近くで暮らす豊かさを未来に繋いでいく、新しいサイクルの一つがこの「森めぐり」です。北本では雑木林の緑が世代を繋ぐ場所にもなっているのです。

暮らしと場の習慣を観光に

「昔はみんな自分ちの生垣の茶の木からお茶を作っていたんだよ」農家のおかあさんが教えてくれました。北本市観光協会では、そんな暮らしの中にある習慣を観光化する取り組みを行なっています。茶の木から新芽を摘んで作る出来立てのお茶の繊細な香り。採れたてのよもぎで作る青々とした草餅。自分達で育てた大豆から仕込んだ味噌の食べ比べなど、暮らしの近くに緑が残っているからこそ楽しめる様々な自然の恵みを体験ツアーにしています。

今も日常の中にひっそりと佇む、昔ながらの習慣や暮らしの知恵は若い世代や子供達にとって新しい発見でもあるのです。あなたもそんな懐かしくて新しい北本の楽しみ方を探してみませんか。

《北本市観光協会インフォメーション》
 住所：北本市西高尾1-249
 開館時間：平日9時～17時（日曜16時）
 土曜日休館
 電話：048-591-1473
 WEB：<http://www.machikan.com/>



モリトコ
(森と子育てのつどい)

きたもと冒険遊び場 森と子育てのつどい(モリトコ)では、子どもをもっとのびのびと自由に遊ばせたいと願う母たちが集まり、プレーパークを開催している。てづくりの森(市民緑地4号)にて、毎月第2日曜日の10時~15時開催。
https://ameblo.jp/moritoko2016/

北本の街中には今も多くの雑木林が残っています。30年近い歴史を持つNPO法人北本雑木林の会が関わることで残ってきたこの雑木林では、2016年から子供達の遊び場「モリトコ」の会場として活用されています。北本の緑を守るまちの先輩「雑木林の会」と、それを受け継ぎ活用する若い世代「モリトコ」の方々の繋がりについて聞きました。

雑木林の会：白川、坂
モリトコ：橋本、石井、田中

——(雑木林にて)気持ちのいい場所ですね。雑木林の会はいつから活動しているんですか？

白川 雑木林の会の立ち上げは1993年です。今はこうやって林の中に入って遊べるような状態になっていますが、当時は中に入れず薄暗くて、粗大ごみの不法投棄も多かったんです。それを何とかしたいなど。私有地なので地主さんと相談して、最初のご近所さんと一緒に家の周りの林から始めました。掃除や下草刈りをし、林を活かして綺麗にするとゴミを捨てる人は減るんです。段々と関心のある人が集まって関わる林も増え、今の形になっています。

——30年近く続いている活動なんですね、すごい。手入れなどの活動頻度はどのくらいなんですか？

白川 5~10月の間は特に草刈りで忙しいです。8つの林をそれぞれ年3回以上、かなりの重労働です。冬は落ち葉掃きや伐採などの作業をしています。ただ林をきれいに保っているだけではもったいないし、活用の輪を広げてもっと多くの人に雑木林に親しんでほしいなど思っていました。



——モリトコの皆さんはどういうきっかけで雑木林での活動を始めたんですか？

橋本 2016年の冬頃に市民と市長が話し合うイベントがあって、そこで知り合ったママさんと「学校以外で決まりや規制がなくて自由に遊べる場所・空間があるといいよね」と意気投合したんです。その方が雑木林の会と繋げてくれて、実際に雑木林に遊びに来たら、

すごくいい場所だったので、ここで子供が遊べるような活動をやろうと、その年に「森と子育てのつどい」通称「モリトコ」が始まりました。

石井 私は最初は遊びにきている側でしたが、お手伝いしたいなど。今は一緒に活動しています。

田中 私は立ち上げから一緒に活動しています。この環境が暮らしの近くにあるのは素晴らしいなど純粋に思います。最近子ども達自身が「雑木林に遊びに行こう」と日常的に言うようになりました。落ち葉にダイブするのが大好きで、大きくなってからも必要な環境なんだと実感しています。

——具体的にどんな活動をしているのでしょうか？
橋本 今は月1-2回程度、雑木林を会場にプレーパークという形で「モリトコ」を開催しています。遊びを教えてくれる見守りをしてくれるプレーリーダーの方をお呼びして、なるべく規制をせずに子ども達が自分の責任でのびのび自由に遊べるような場をつくっています。私達は雑木林の会に加えて、プレーパークの繋がりである埼玉冒険遊び場協会にも所属しています。市内市外問わず遊びに来ってくれる人は増えていますね。

——実際、暮らしの近くにこんな緑の環境があって、ある程度自由に使えるって素晴らしいことですよね。

白川 都内に住んでいる息子が月1回子連れで帰って来るんだけど、

北本市の雑木林を保全・保護し、活用する活動を行っている。市民による活用としてモリトコ(毎月1~2回)、雑木林を楽しむ会(春と秋)、中学生ボランティア教室(年4回)、自然観察会(毎月1回)などがある。定例作業日は毎月第1・2・3土曜日(9:00~12:00)。作業内容は雑木林での樹木伐採・ゴミ拾い・草取り・草刈り・枝落とし・枯れ枝集め・落葉はき・希少種草花保護などを行っている。http://zoukibayashi.main.jp/



NPO法人
北本雑木林の会

都内ではこんなに良い環境は探せないって言いますね。こういう自由にやれるところは少ないらしいんだよね。

橋本 モリトコの活動も最近は理解してくれる人が増えてきて嬉しいです。世代が違っても繋がっていくこと、続けていくことが重要ですよ。

——モリトコは女性が多いんですか？

橋本 6人のスタッフはみんな女性ですね。(現在は雑木林の会会員)遊びに来る人は最近パパも増えました。

坂 会としても若い人が来ると嬉しいです。プレーパークのロープとか一緒にやって、力仕事も助かってます。

——男性の参加者も増えてきているんですね。男女問わず、子供だけでなく大人でも雑木林で遊びたい、という人もいるような気がするんですがどうでしょうか？

石井 モリトコからすると大人だけでも来てほしいって思ってるんだけど、プレーパークっていうと子供向けな印象があるのかな。私たち以外にもここを使って何かやってほしいですね。

橋本 来てくれる大人も楽しめなくちゃ、結局子供も楽しめないと思ってます。モリトコの時でも子供も大人もそれぞれ好きなことをする、そういう時間があるのもいいんですよね。ほかのママパパと話すきっかけにもなって、それも結構楽しいです。

——モリトコで若い世代が入ってきて賑やかになっていると思うのですが、雑木林の会としてはどうですか？

白川 会の人は作業を伴った自然が好きなんです。作業量が多いこともあって、モリトコで子供たちと遊びたくともなかなかできないのが現状です。

橋本 みんなずっと働いてきて、ようやく自分の時間を持てるようになって。それでまた若者に気を遣うのは大変ですよ。若者もきくと、雑木林でぼーっとゆっくりしたいだけなんですけどね。

白川 なるほどね。若者も忙しいからたまにはほけっとしたい。場所がこういうところだと気持ちいいよね。だから、それでいいと思うんだけどね、ほけっとしてたり作業してたりね。

坂 ハンモックあるから、お父さんお母さん来ると乗ったまま寝てたりするよね。あれ気持ちいいんだよ。

——うまく交流が進むといいですね、気を使わずにいられるような仕組みとか、色んな関わり方が見えると、使う人も増えて、雑木林を守る活動に興味を持つ人も増えそうです。

白川 例えば、定年とかで退職してすぐ地域社会に溶け込もうって難しいんですよね。結局みんな働いていたからばらばらで。会社の付き合いはあっても地元には繋がりが無い。だから週末とか時間のあるときに少し雑木林に来て、地域社会に居場所を作っておくのもいいんじゃないかな。



——今度、南小学校の前の林には「どんぐりハウス」ができますね、あそこも新しい拠点になりそうです。
白川 はい、西後保護地区に「どんぐりハウス」という建物を建設しています。これは地元住民向けの物品販売店ですが、地域交流のための拠点になればと思って

います。雑木林は基本的に管理人がいなし電気水道トイレもないのですが、それらを常に使える林が1か所くらいあってもいいなど。

——水場やトイレなどが整備されるのはありがたいですね。色々な展開がありそうで楽しみです。大人でも雑木林に気軽に来れる企画、例えば雑木林でコーヒーを飲もう、とか。「どんぐりハウス」をきっかけに、行きたいな使ってみたいなという人が増えるといいですね。

橋本 そういうのが開かれている雑木林っていう感じ、新鮮でいいですね。

白川 利用方法は今話し合っている最中で、これから決まります。個人的には「森のパン屋さん」をやりたいなんて案を出したこともありますが。

——最高ですね、朝、雑木林でパン食べてコーヒー飲んで出勤したい。

白川 麦も自分で作っているんです。北本には使われていない畑があちこちにありますが、それらの利活用も視野に入りたいです。どんぐりハウスも活用して、将来若い人や会員が、木工工作をしたりお菓子やお惣菜を作ったりして、そんな人と人のつながりができるといいですね。

——やりたいことをやれる場所として雑木林や畑、色んな自然のフィールドがあると。素晴らしいですね。若い人にもぜひ繋がって欲しい考えです。これから雑木林でどんなことをしていきたいですか？

白川 若い人もですけど、北本には囲碁・俳句・ダンスなど交流団体がいっぱいあるので、そうした団体の人たちにも雑木林を大いに利用していただきたいですね。

橋本 プレーパークに関しては、いずれは行政が入って常設になったらいいと思います。安全面に関してもしっかりカバーして、よりたくさんの方が入れるようになるのが理想です。生真面目にやっていると誰かが手を貸してくれたり人と繋がることもあるんで、続けていきたいですね。

——常設になったら、遊びに行く選択肢に児童館や図書館と並んで雑木林が出てくる。すごく豊かなまちになりますね。

橋本 でもやっぱり一番は自分が楽しめるかどうかですよ。やっている人が楽しんでないと、続かない。みんな雑木林でやりたいことやってるからね(笑) 雑木林を楽しみたい人が気軽に遊びに来られるようになれば嬉しいです。





街ナカ &green

北本では街ナカでも緑の恵みに触れることができます。市内に約80か所ある農作物直売所では、地元農家さんの採れたて北本野菜を毎日買うことができますし、石戸トマトの歴史から生まれ全国ご当地カレーグランプリ 2019でも優勝を果たした名物・北本トマトカレーは市内の様々な店舗で食べられます。北本市役所の芝生広場を会場に行われたマーケット「みどりといち」は大きな賑わいを見せ、運営を行なった地元若者のチーム「暮らしの編集室」は、みどりからまちを考える新しい視点でまちを盛り上げる活動を行っています。



地元農家さんが採れたて野菜を販売し、市内外の人気店が軒を連ねて、音楽が鳴り響く中で大人も子供も大はしゃぎ。2019年、北本市役所の芝生広場を舞台に初開催された「みどりといち」は大盛況でした。“みどりと暮らす北本のいち”をコンセプトに北本の暮らしの魅力をぎゅっと集めたこの一日限りのマーケットイベントの仕掛け人は「暮らしの編集室」という地元の若者チームです。2019年から活動を開始した「暮らしの編集室」は、市内の魅力を見直し「編集」することで北本のまちに新しい楽しみ方を作り出そうと活動しています。

「みどりといち」のほか、立場を超えたフラットな話し合いからまちに共通言語を作り出す「きたもと未来会議」、面白そうな空き家・空き物件を訪ね回り街歩きを行う「空き物件ツアー」、編集の視点を学び地域メディアを作ることを目指す「編集員養成講座」など様々な試みを行っており、みどりから市街地を考える新たな視点で、北本のまちを盛り上げるべく奮闘しています。

暮らしの編集室

暮らしの編集室

<http://kitamotokurashi.com/>



遊ぶ・食べる &green

日本五大桜石戸蒲ザクラ



大正11年に国の天然記念物に指定された5本の桜を日本五大桜と呼びます。その一つが北本市にある「石戸蒲ザクラ」です。樹齢は800年を数え、エドヒガンとヤマザクラが自然交配した世界でただ一つの貴重な桜です。毎年4月上旬に白く可憐な花を咲かせ、多くの人を楽しませています。



きたもと「四季の恵み」マルシェ (北本市農業ふれあいセンター)



朝採りされた北本産の新鮮な野菜のほか、地元ブランドにこだわった食品を多く取り揃える「桜国屋」。北本産そば粉で打ったそばや北本産野菜を使った天ぷらなどが楽しめる「さんた亭」。二つの施設を備える農業ふれあいセンターは、2020年4月、カフェや販売エリアを加え、リニューアルオープンします。



[北本市深井7-265-4
電話：048-594-5532]

北本トマトカレー



全国ご当地カレーグランプリ (2014年、2019年)、土浦カレーフェスティバル (2016年) で優勝し、日本一と評された「北本トマトカレー」。レトルトやフレイクが市内のスーパーや北本市観光協会で購入できます。また、市内の様々なお店が、独自の工夫を凝らした北本トマトカレーを提供しています。お気に入りの北本トマトカレーを探してみてください。



グリコピア・イースト



全国のポッキーやブリッツを製造する東日本最大のグリコの工場「北本ファクトリー」。その工場見学が無料でできる施設が「グリコピア・イースト」です。館内では、グリコの「ポッキー」「ブリッツ」の製造ラインを見学できるほか、クイズチャレンジツアーや歴代のおもちゃの展示など、楽しい仕掛けがいっぱい!



[北本市中丸9-55 電話：048-593-8811]

クッキークル

尾上由子(なお) 1981年北本生まれ。独学で焼き菓子を作り続け、2010年にクッキー屋「クル」をオープン。レシピ本「さくほろっしゅわな ゆかいなおやつ」(新星出版社)発売中。夫と2歳になる娘と3人暮らし。
http://cle-cookie.com
北本市中央3-84 電話:048-593-5324

Kenichikondo

近藤健一 1981年名古屋生まれ。小学生の時にさいたま市(旧浦和)に引っ越し。武蔵野美術大学金工卒業。卒業後七宝に(正式に)出会い、のめりこむ。2010年より北本市のアトリエ兼住居にて制作を行う。
http://www.kenichikondo.com

北本市外からも多くのお客さんが訪れるクッキーのお店「クル」の店主なおさん。荒川沿いの豊かな自然環境の中に自宅兼アトリエを構え作品制作をしながら暮らす七宝作家の近藤さん。北本出身のなおさんと市外から移住してきた近藤さんは、同い年かつ同じ「焼き」仲間。美味しいお菓子里に素敵なお宝作品、北本の新しい魅力を作り出すお二人に、北本暮らしのリアルを聞いてみました。

— 2人はもともと知り合いだったんですか？

近藤 いや、北本に引っ越してきてからですね。

なお 「森のレストラン」^{※1} っていう北本市内のイベントに出店したときにお客さんとして来てくれたのが初めてで、それから。普段も近藤君がお店に来てくれて話すくらいだけど、不思議と居心地よく色々話せる関係なんですよ。

近藤 弱みも含めて話せる人って多くないから、伝わろうが伝わまいが、弱音を吐いて、言いたいことを言えるだけでもありがたくて。

なお それは違う！とかの否定もせず、ただお互いがそうであるっていうだけ。いい距離感ですね。

— 気のおけない友達って感じなんですか。北本で仕事を始めるときは、どういう気持ちでしたか？

なお 私は「クル」を始める時はネットショップを中心に考えていて北本の人メインターゲットではなくて、「地元でやろう！」も「北本は嫌だな」も特になかったんです。ただ、それまでの私の北本のイ

メージって、周りから「なにでもない」って言われていて「つまらない町」でした。やっぱりそれがずっと悔しくて。北本でちょっと変わったことをやる人が1人ぐらいいても良いんじゃないかって始めた部分もあります。クッキー専門店だしネットショップだし最初は全然理解されなかったんです

けど。なんとかもうすぐ10年ですね。

— 近藤さんはどうですか？

近藤 住む場所を探していて、妻が物件紹介のツアー^{※2}に参加したのがきっかけです。内見した建物の雰囲気と環境が気に入って、改装して家と工房にして移住してきました。その後、訳あってその物件を出ることになったんだけど、歩いて引っ越しできる距離に今の物件がタイミングよく見つ

かって、また改装して住宅兼アトリエにして暮らしてます。だから北本に来たのは結構偶然かな。今は居心地もいいし気に入ってます。

— 移住先を探している人から見ると、空いている物件のマッチングが重要なんですね。きっかけ次第とか。

近藤 そうだと思うよ。探してる条件の物件に会えるかどうかは大きいと思う。なんだかんだもう10年近く北本にいるもんね。

— 実際に北本で作品を制作しながら暮らしていて、どうですか？

近藤 環境はいいですね、静かだし、緑は多いし。でも、ちょっとのんびりしすぎて東京と自分の感覚がずれてきている気はするかな。展示とかで自分としては満足のいく出し方をしているんだけど、ちょっと弱かったりとか。

なお それはお菓子でも感じるよ。お客さんの反応も変わってきてるよね。自分のやりたいことが東京に「ハマらない。」

近藤 それ！「ハマらない」全然ハマらない！（笑）でも、売るために合わせすぎるとも癪だから、いろいろ考えますね、バランスだと思うけど。

— 東京は特にマーケティングありきの動きとか、消費のための消費という感じなんですかね。生活よりも。

なお そうなのかもね。それはそれで良いんだろうけど、ドキドキワクワクすることは個人的に減ってきている気もする。大事にしたいことも少し違うのかもなあ。

近藤 最先端っぽいものに合わせるのも合わせないのも、何となくどっちにもなりきれないんだよね。まあ今年で10年だし、どうしてこうかなって、楽しみでもあります。

— 東京に比べると北本は良くも悪くも色々なものが混ざっている感じがありますよね。生活と地続きとか。ある意味、許容されるモノトの幅が広い、自由な場所なのかな。

近藤 今週は大阪から指輪を受け取りに来てくれる人がいるんだけど、来る側からすると東京から離れすぎでないのも良いのかもね。東京でも遊んでそのまま1時間くらい足を伸ばせば来られる距離で。

— 近藤さんはプライダリングもやってるんですね。北本の人からの注文もありますか？

近藤 そうですね。プライダルだけでなく、一年おきに家族全員分頼んでくれた人もいました、北本のイベントで初めて買ってから、益子陶器市に何度も来てくれる人もいたりして、ホントに嬉しいです。

— そういう関係、良いですよ。売る側と買う側なんだけど、消費を超えて関

係性が生まれるような。なおさんは北本市内で店舗を移転しましたよね、北本を出る選択肢はありませんでしたか？

なお いずれ東京にっていうのは、お店を始めた時はどこかにあったかな。でも、今のつながりを大事にしたいから、北本のお客さんが買いやすいところに居たいなって。北本を拠点にしながら、東京とかほかの地域とのつながりも持っているっていうバランスが私はちょうど良いんだなって思う。自分のペースで考えられるのも。

近藤 距離感はあるよね。仕事のやり方や性格、生活、家族とか考えると俺にはぴったりだったかも。

なお 首都圏から電車で1時間の距離じゃなかったら、もっと東京に対するあこがれの気持ちとか強かったかもしれない。でも行こうと思えばフラッと行ける距離で、のんびりしたところもあって、ちょっと出遅れる感も最高ですよ。愛すべきところだなーって。

— それこそもうちょっと遠くなると、消費もその地域で自立しますよね。熊谷とか高崎とか地方都市みたいな中心ができる。

なお そうそう、例えば熊谷なら、ここでやっていって気持ちは強くなるかもしれないけど、良くも悪くも北本はそこまで強くない気がしてる。強くないというか、誤解を恐れずに言えば無関心って感じなのかな。だから私はやれているって思うときもある。

近藤 まちで頑張っていることに関して自分がどこまで

北本のことを考えているかっていうと別に考えていないもんね。でも、わりと満足しながら日々を送っている。

なお その無関心な感じが良い意味で、いろんな個人店があるのを許してくれてるんじゃないかな。合わなければ来ないし、合えば来てくれるっていう感じがすごく楽。

近藤 そう、だから頼ってほしいと思う。居心地もいいし。不思議だけど、オレもそれで10年やってきたから。強くないのが良いのかな。

— 強くなくても良い、っていうのが居心地の良さなんですかね。分かる気がします。今後、北本にこんなお店が欲しいとかありますか？

近藤 打ち合わせ終わりに紹介できるお店がもう少しあったらいいなあ。荒川サイクリングロードのところはすごく可能性があると思う。カレー、タイ・メキシコ料理、パン、定食…食べ物屋ほしいよね。

なお お客さんを見て、子供連れが楽しめるまちっていいなって思う。やっぱり子育てに行き詰っている人たちは結構いるから。行政が運営する無料の場所について「させてもらう」も良いんだけど、もう一歩進んで「お金を払って自分の意思で関わっていく」からこそ生まれるつながりもあると思う。「このお店が好き、この感じが好き」って、好きでつながるって強いと思うの。

— 例えば「子供と一緒に居られるカフェ」があると、その場所が無くなって欲しくないからみんな来るとか、普通にカフェに行くのとは違う、少し深い共感がありますよね。「焼き」仲間でもなくとも、北本にものをつくる仲間もってほしいですか？

近藤 うーん、今もお店の人とかとの絡みはあんまりないよね。

なお いたらいたで楽しそうだけだね。北本は「ものづくりの里にしていこう！」みたいなわずらわしさがなくて、すごく居心地が良い。

近藤 あそこに挨拶しておけ！みたいな（笑）それが少ないのはいいね、自分のペースでやるのって思った以上に大事というか、気を遣ったりで知らぬ間にダメージ受けたりするから。

なお でも、私、店を始めてもうすぐ10年なんだけど、当時の私みたいに一世代下の人たちがお店を始めてくれたら楽しいかも。上手くいかないことも多いけど、やっぱり楽しいし、まちが面白くなるのは嬉しいかなあ。いっぱい失敗してきているし、そういう人たちには「ダメならやめてもいいんだよ」もセットで、何か伝えたいかな。

近藤 好きなことを形にするのは良いよね、大変なことも多いけど楽しいよ。好きだったらやめようがないから。作家志望の人とかお店をやりたい人には、作り手やフリーランスの人がいる安心感と、あと、わずらわしさはないよって伝えたいかな。居心地が良くて、意外といいまちだからね、北本。

※1 森のレストラン 2011年に柳瀬学園自然教育園を会場にし行われたマーケットイベント。

※2 おもしろ不動産 2010年に北本で行われた「おもしろ不動産」のツアー。



暮らし & green

安心安全

縄文時代から選ばれ続ける

災害リスクの少ないまち

大宮台地の最高地点に位置する北本市。中でも一番標高の高い場所は、荒川を望む高台の高尾付近で海拔は32mです。荒川との標高差が大きいため、台風等による洪水の危険性は低く、また、地震の計測回数も近隣市と比べると少ないため^{*1}、災害リスクの少ない、安全な街と言えます。関東最大級の環状集落である「デーノタメ遺跡」など、縄文時代の遺跡が多数発見されていることから、古くから定住の地として選ばれていたことがわかります。

^{*1}気象庁震度データベース過去10年間震度3以上回数(2009年11月～2019年11月)より



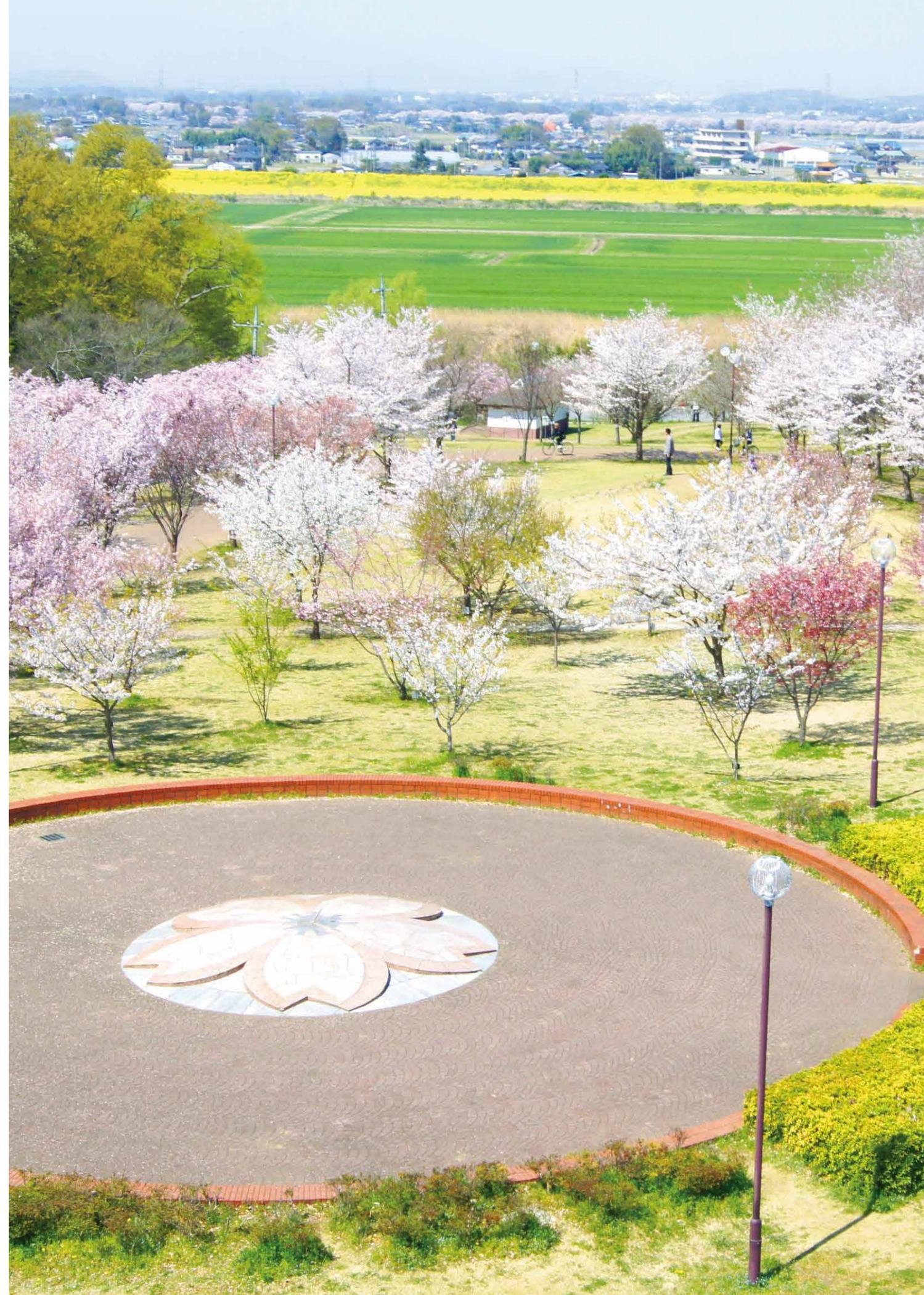
上部左からデーノタメ遺跡「ヒスイ製大珠」「クルミ形土製品」「勝坂式土器」「遺跡調査風景」
下部左から宮岡氷川神社前遺跡「異形土器」「土製耳飾り」「土偶」

地域による見守り活動で

犯罪を抑える

地域防犯推進委員やスクールガードリーダーなど地域の住民による子どもの見守り活動や防犯パトロールを行っています。加えて、自治会においては84の自主防犯団体が結成されており、日々地域の安全活動に取り組み、犯罪を寄せ付けないまちづくりを行っています。これらの活動により、刑法犯認知件数は10年前と比べ半数以上減少しており、犯罪率^{*2}は令和元年の埼玉県平均7.6に対し、北本市は6.4と低い率となっています。

^{*2}埼玉県警察発表令和元年市区町村別認知件数・犯罪率より



子育て

充実の遊具、絵本がそろそろう

児童館・こども図書館

北本市役所に併設されている北本市立児童館・こども図書館。最新の遊具、絵本がそろい、休日になると市内外から多くの方が訪れます。特に人気の遊具はクライミングウォールとボールプール。子供たちが雨の日でも楽しめる新しく綺麗な施設をぜひ一度お楽しみください。

子育て世代のお金の負担を軽減

高校生までの医療費助成

「めざせ日本一、子育て応援都市」を宣言し、子育て環境の充実をはかる北本市。特に、子育て世代の金銭的な負担を軽減するために、高校生までの医療費を助成する事業や多子出産祝金事業などを行っています。



教育

北本式小中一貫教育

中1ギャップの解消・確かな学力や豊かな心の育成

小学校から中学校への進学で環境が急激に変化することから起こる「中1ギャップ」問題。北本市では、「中1ギャップ」の解消と確かな学力や豊かな心の育成を目指し、小・中学校の教員同士が各々行き来して授業を行ったり、児童・生徒の情報を共有したりしています。義務教育9年間を滑らかに接続し、途切れることなく児童・生徒の成長を促すため、市独自の小中一貫教育を行っています。

出来立てのおいしいご飯を

自校式での給食提供

北本市では全小・中学校がそれぞれ自校式で、給食を調理しており、出来立ての温かい給食が提供されています。全国ご当地カレーフェスティバルで一位に輝いた「北本トマトカレー」が給食で提供されることも。



北本市からのアクセス

電車を利用した場合



車を利用した場合

大宮	35分
熊谷	35分
川越	35分
八王子JCT	35分 (圏央道)
つくば中央IC	50分 (圏央道)
練馬IC	30分 (圏央道/関越自動車道)
高崎IC	45分 (圏央道/関越自動車道)
海老名IC	1時間 (圏央道)
成田IC	1時間半 (圏央道/新空港自動車道ほか)

※時間はおおよその目安です